



《しめ縄飾り》

鉢盛おろし

新年に向けて

1月1日、1年の始まりは家族との「今年も宜しく願います。」の挨拶を済ませるとお寺へのお年始に向かうのが毎年の恒例になっています。お天気も良く気持ちの良い朝にお寺に着くと立派なしめ縄飾りをした正門が目に入りあらためて新年を感じました。

本堂に進むとお年始に訪れた檀家の方々が御住職への挨拶の順番を待って座っています。

自分の順番が来て新年のご挨拶とお焼香してから総代会の方からお茶を頂いて帰路に着くわけですが、ふとお寺の年末年始はどのような事をするのか知りたくなりましたので、光輪寺の御住職からお寺の年末から新年の行事をお聞きしてみました。12月の後半に「しめ縄飾り」と「お焚き上げ」が行われるとの事、今年は12月21日(日)の午前9時から総代会の皆さんがお寺の各箇所を始め、薬師堂、十王堂、仁王門など計10箇所のしめ縄を施すそうです。午後3時からは事前にお寺に持参された古くなったお札やお守り、塔婆などの御供養するために魂ぬきをされてから「お焚き上げ」が行われます。30年ほど前から無料で行っているとの事で、以前は薬師堂の敷地内での行事でしたが、近年では消防署からの指導もありお寺の畑を使つてのあまり大きな火にならないようにしているそうです。

大晦日は午後11時から新年にかけて薬師堂で恒例の新年祈願会が開かれ、家内安全、交通安全、病氣平癒、合格祈願、厄除けなどの諸願成就のご祈禱を行います。こちらの護摩祈禱は御堂の護摩壇にて40年ほど前から行われているようですが、コロナの影響で皆さんが集まる中での祈願会から密を避けての御住職のみでの会になったそうです。

冒頭にある、私が元旦に訪れるお年始のご挨拶は、お仕事に行く前に訪れる方もいるので午前7時30分位から11時30分位まで総代会の皆さんのご協力も頂き行われるそうで、「檀家さん1人ひとりと新年の挨拶が出来て感謝の気持ちでいっぱいです。」とお話していました。三が日が過ぎたところで3日から4日にかけて檀家さんの家に紙札を持って挨拶周りをする事が慣例で、お忙しい年末年始を送っているようでした。皆さんの年末年始は如何だったでしょうか。

今年はミラノ・コレティナ冬季五輪、野球WBC、サッカーワールドカップとスポーツイベントが多く楽しみにしています。

新年 謹賀



公民館長
下田 力

年頭のあいさつ

新年あけましておめでとう
ございます。健やかに新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。日頃より公民館の運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年は大きな気象災害にこそ見舞われなかったものの、4月18日には大町市八坂付近を震源とする震度5弱の直下型地震がありました。幸い朝日村では大きな揺れにはなりませんでしたが、翌日調査のため訪れた八坂地区では石積の倒壊などの被害があり、少し離れた安曇野市明科では、屋根瓦の崩落など被害が集中した地区があつて、あらためて常に災害を意識した生活が必要だと感じました。

くこと、地震に備えて家具の倒壊防止をすることなど身の回りの備えは当然必要です。ただ、避難することを考えた時には、隣近所との助け合いが必要になってきます。助け合いの心は普段の何気ない生活の中で育まれます。難しく考えなくていいと思います。たとえば楽しく公民館行事に参加して、近所の方と他愛のないお話をする、これも地域コミュニティの醸成につながると思います。

7月のお夏まつり、8月の盆野球大会、10月の体育祭(スポーツ・フェスティバル)、11月の文化祭などが行われ、各種講座にも多くの皆さんが参加していただいています。なお一層参加してみたくするような魅力的な企画になるよう、職員一同皆様とともに創り上げてまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

結びに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



教育長
百瀬 司郎

新年挨拶

新年明けましておめでとう
ございます。

皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭に当たり、教育委員会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年

は午年と言うことで飛躍の年になるよう願っております。

今年度の公民館事業は皆様方のご協力により、以前にもまして充実した活動ができましたことに心より感謝申し上げます。

5月の長寿を祝う会は久しぶりに大勢の皆さんが一堂に会し、飲食しながら演芸やカラオケで楽しむことができました。

8月のお夏まつりは、例年より1週間早めでしたが、狐のお面を自作して付けていただく等彩り豊かな祭り風景となりました。途中で少し雨がぱらつきました

が、昨年より大勢の皆さんに来ていただき、踊りや花火を楽しんでいただきました。

盆野球大会は好天に恵まれ、朝から熱戦が繰り広げられました。決勝戦は1点を争う好ゲームとなり、手に汗握る攻防の末、栄えある栄冠を手にしたのは原新田チームの皆さんでした。おめでとうございます。

11月の文化祭は、「朝日村の百年を振り返って」と題し、写真・年表等が展示されました。また、文化講演会では「いつもムラには歌がある」の上映があり、信州博

で村民一体になった手作りミュージカル「朝日村ファンタジー」の様子が映し出されました。懐かしい思い出に浸ると共に朝日村の底力を感じたひとときでした。

今年は、中学校部活地域展開が進みます。中学生の交流の場としての楽しい居場所作りも始まります。中学生はじめ多くの皆さん中央公民館にお立ち寄りください。

結びになりますが、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

朝日小学校 給食再開

12月22日(月)朝日小学校に於いて、児童たちが待ちに待った給食が再開されました。

これは令和7年6月から始まった給食調理室改修工事に伴い、給食提供が中止されていた事によります。室内の大規模な造作改装、調理機器の入れ替えなど大変がかりな工事だったようです。その間児童たちの昼食は仕出し弁当などでまかなっていたようですが、やはり作りたての温かいご飯が恋しかったらしく、子どもたちからは「早く給食が始まらないかなあ」との声が出ていたようです。

この日、時間になると白い給食着を着た児童たちが、真新しい給食配膳口に整列し、各々の給食を受取りました。「有難う御座いました!」の聲が弾んでいて、見ているこちらにも嬉しさが伝わって来るようです。森崇校長先生からは「子どもたちは幸せだと思う、学校に対して(子どもたちに対して)手厚く支援をして頂ける村の姿勢には、多に感謝しております。」とお言葉でした。確かにコンベクションやフ

具も導入され、小林弘幸村長は「調理器具も新しくなり、味もこれまで以上に美味しくなればと思う、児童の皆さんは給食をいっぱい食べて欲しい」と話されていました。2年生担任の柳澤匡先生にお聞きすると「今日は食べている皆さんの表情がいい、美味しいんだろうなあ」との事でした。給食担当の上條雄也先生は「これからも引き続き、安全で美味しい給食を提供していきたいと思っています。」と述べておられました。食べている児童たちに「美味しいかい?」と尋ねたところ、皆が声を揃えて「めっちゃ美味しい!」と答えてくれました。この一言に尽きるようです。

令和7年度、学校給食を対象にした『県産品を活用した献立コンクール』に於いて、栄養教諭の上條雄也先生率いる朝日小チームは、村産レタスを使った麺メニューにて、見事「優秀賞」を受賞されました。先生を始め調理員の皆さんのご努力に対し、村民の一人として敬意を表するものです。こんな素晴らしい方々が給食室にいらっしゃるなんて、これって村自慢のひとつですよ!



試食会でのメニュー



たくさん食べるぞ



とってもおいしい



楽しみに並ぶ子どもたち

シリーズ発見！朝日人⑦

吉平 翔さん



一之沢地区でワイン専門店と和食店を、奥様と営んでいる翔さん。

翔さんは愛媛県今治市伯方島出身で、十年前ご結婚を機に、奥様の地元であるこの村へ移住して来られました。

最初は少し緊張していたそうですが、今ではすっかり村の生活にも慣れ、村内外で活躍されています。関西の料理旅館で和食の料理人として腕を磨き、2014年に日本ソムリエ協

会認定ソムリエの資格を取得。朝日村の風土に魅せられ、2016年に古くからある土蔵を改装したワイン専門店、「吉平酒店」を開業。ワインは、店主の奥様と二人で試飲会に出向き、厳選した品揃え。農家の思いや土地の個性まで丁寧で紹介してくれるため、近隣の市町村にファンが増えています。

「お客様の嗜好を一度に把握するのは難しいですが、お客様にピッタリな一本に出会えるように努力しますの

で、気長にお付き合いください」と翔さん。ワインが貯蔵されている店内は、「地中熱」という自然エネルギーを使用し、地球環境に配慮された室温管理で、ここにも翔さんのこだわりが伺えます。また、奥様も調理師免許を取得されており、ワインと料理を、皆さんに楽しんでいただける場所を作りたいという思いから、2021年、日本料理店「馳走よしひら」を酒店と同じ敷地内にオープンさせました。

信州で採れた旬の食材を活かし、「ここでは味わえない一皿」を目指して日々工夫を凝らしておられます。

そんな翔さんがこのたび、長年の経験と知識をまとめたワインの本を出版されました。ワインの醍醐味であり、難点でもある食事との組み合わせを分

かり易く紹介しており、ワインの基礎知識や地質、料理の構成なども掲載された内容です。「ワインと料理を単体として切り取っても面白い使い方のできる本ではないかと思っています。また、表紙にあるようなやわらかなイラストが本全体に多く散りばめられていますので、内容は密度が高いですが、視覚的に分かり易い仕上がりとなっています。」と話してくださいました。

新しい知識と味わいを届けてくださる翔さん。

新年のひとときに、暮らしをちょっと豊かにする味わいの一冊です。



朝日新聞出版より『ロジックを楽しむ ワインペアリングの教科書』1,870円(税込) 全国の書店、アマゾンにて絶賛発売中！(吉平酒店でもお求めいただけます。)



クラブ紹介

●サンライズ

サンライズは、保育園児から小学生までの子どもを対象としたダンスサークルです。皆さんも一度は、お夏祭りや文化祭などのステージでダンス発表をご覧になったことがあるのではないのでしょうか。朝日村以外でも、塩尻市や松本市のイベント会場でダンスを発表する機会があるそうです。

松本市梓川でフィットネス教室を開催している川上有子先生が、2005年に朝日村でキッズビクスをしたのがきっかけとなり、サークルがスタートしました。ほかのサークルでは、洋楽やKポップなどの楽曲を使用することが多いと思いますが、サンライズでは、Jポップを中心としたダンスを踊っています。

現在は、保育園の年少さんから小学校5年生までが在籍しており、火曜日の16時30分から1時間ほど、トレーニングセンター・アリーナで練習をしています。夏休み期間の8月と冬季期間の1月、2月の練習は、お休みです。

随時、新規メンバーを募集中です。事前に連絡をいただければ、練習を再開す

る3月以降にレッスンを体験することができます。会費は、月額1,000円です。
興味のある方は、中央公民館までお問い合わせください。



練習風景



朝日村文化祭での集合写真

●あさひモルッククラブ

令和7年、7月にクラブとしての活動を始めたまだ新しいサークルです。モルックは、フィンランド発祥のニュースポーツで、筆者の感覚としては、ボーリングとビリヤードとおなじきを混ぜ合わせた様な競技です。クラブ発足のきっかけは、現会長と指導員のお二人が、朝日村スポーツ推進委員をお務めの折、もう少し幅広く気軽に楽しめるスポーツはないか?と模索した事が始まりだったようです。

さてモルックとは…?

ルールは簡単で、それぞれ数字がかかれた木製のピンを、投てき用の木の棒(これがモルックと呼ばれる、競技名の由来となったようです)で倒して、得点を競うスポーツです。老若男女分け隔てなく楽しめて、体力差による有利・不利もなく、また複数人でチームを組むため戦略性、チームの和も重要な点です。現在、中央公民館を中心に月2回ほどの、練習会・競技会を催されていますが、試合というよりは、メンバーみんなで和気あいあいと楽しんでいる雰囲気との事、いずれは大きな大会にも出場してみたいとの希望をお持ちだそうです。

この気軽に楽しめて、なおかつ奥の深いスポーツ、試しにやってみてはいかがでしょう?見学も自由に出て

中央公民館に問い合わせれば日程なども教えて貰えます。「やってみると案外はまる!」とお話でしたよ。

会長・藤枝真喜さん
指導員・近藤志津恵さん
メンバー・25人(68歳〜3歳)



モルック用具



試合の様子



サラダの里通信

クリスマスお話会

令和7年12月13日(土)、A Y Tマルチメディアセンターハイビジョンホールにて、朝日村図書館クリスマスおはなし会が催されました。

今回は親子連れを中心に約40名の参加者がいらつしました。

まずは、朝日村のイベントではすっかり馴染みの人形劇サークルほっこり座さんの登場です。年間10回前後のイベントに参加していらつしやるというほっこり座さん。この日は5名の会員さんが、結成初期から活躍している紙コップ人形のカップちゃんや犬のパペット、そして新人のおばあちゃん人形を駆使して、観ている人も参加できる歌遊びや手遊び、朝日村の日常をユーモラスに切り取ったお芝居などで会場を盛り上げてくれました。

その後は、これもまたユーモラスなイギリス民話の紙芝居『みつつのねがいごと』の鑑賞に笑い声が起きたり、クラフトバンドでのミニクリスマスリース作りでは、親子で楽しく取り組む姿が見られたりと、終始なごやかで温かな空気に包まれたクリスマスらしいイベントとなりました。

最後は図書館スタッフが用意してくださったクリスマスプレゼント(かわいいキャンディだったようです)をお土産にいただいて、皆さん一足早いクリスマス気分を満喫されていました。



紙芝居『みつつのねがいごと』



人形劇の様子

「親子で体験!朝日村文化講座」郷土料理 冬至かぼちゃ

令和7年12月21日(水)、朝日村公民館で冬至かぼちゃ作りの講習会が行われました。

参加人数は、大人9名、子ども10名、講師の先生3名でした。

講師の先生である、朝日ヘルスメイトの清水さん・上條さんと村管理栄養士の宗田さんに教えて頂きながら料理教室が始まりました。かぼちゃは硬いので、電子レンジで加熱すると楽に切れるなど、講師の先生からちよとしたコツを教えてもらいながら、かぼちゃを切ったり、すいとんを捏ねたり、親子で協力して大変賑やかな時間となりました。

筆者は、見学していただけですが、各家庭で教える方が違う事と、早く料理したい子どもたちと先生のレシピ通りに進めたい親御さんとのやりとりがとても微笑ましかったです。

冬至かぼちゃは、冬至をすぎて、これから寒くなる冬も元気で無事に過ごせるように栄養をつける意味と、かぼちゃやあずきの赤色で邪気を払う願いがこめられた食べ物のようなようです。冬至かぼちゃを食べる風習は、日本各地で行われていますが、団子が入るのは、中信地区だけのようです。

昔は、中信地域で小麦がよく作られていたからという説があるそうです。



講座の様子



興味津々の子どもたち

料理時間約50分で、おまちかねの試食タイムになりました。とても信州らしく、冬至かぼちゃの他に野沢菜のお漬物とお茶とお菓子が用意されました。(他県では、お茶の時間にお漬物は、出ません。)

私も一緒に味見させて頂きました。大変美味しかったです。

次回の料理教室は、令和8年2月14日にやしうまづくりを予定しているそうです。



第45回西洗馬分館 元旦マラソン

令和8年1月1日(木)、西洗馬分館の恒例行事、「元旦マラソン」が西洗馬集荷場を起点終点で開催されました。一年の計を「走ることに」から始める特別な朝が今年もやって来ました。

当日の日の出は、6時51分頃、日の出から間もなくたくさんの参加者が集まり始めました。朝7時30分、昇り始めた初日の出に照らされ：とはいわず太陽は雲に隠れていましたが、スタートの合図で皆一斉に走り始めました。

コロナで開催されなかった年もありましたが、連続で何十回も出場されている方もいるようです。

冷たく澄んだ空気の中、それぞれのペースでゴールを目指す参加者たち。参加者全員にお年玉(図書カード)がゴール地点で配られ、その先で飲み物や防災グッズとして長期保存食品が配られました。

早朝から準備にあたられた分館運営委員の皆さま、そして力走を見せしてくれた参加者の皆さま、本当にお疲れ様でした。今年も、西洗馬地区が活力に満ちた素晴らしい一年になりますように！



ゴールの後は飲み物配布場所へ



皆さんそれぞれのペースで



元旦マラソン一斉にスタート

食でつながる地域の輪 朝日村「カレー大作戦」3年目の挑戦

「子どもたちに温かいごはん笑顔届けたい」…そんな想いから始まった、朝日村の子ども食堂プロジェクト「カレー大作戦」が、今年度で3年目を迎えました。

この取り組みは、村内の飲食店や個人・団体のみなさんが協力し、カレーライスなどの昼食・夕食を、子どもたちや保護者に無料または低価格で提供するものです。

会場となる公民館や集会所には、毎回たくさんの家族が集まり、食事だけでなく、会話やふれあいを楽しむ姿が見られます。

子どもたちが自由に遊べるスペースや、来場者が料理を作った人に感謝の気持ちを伝える「メッセージコーナー」も設けられ、世代や立場をこえた交流が生まれています。

また、子どもたち自身が調理体験を行う回もあり、「食」を通じて学びの場としても広がりを見せています。毎年、地元農家やJA青年部の協力のもと、村の子どもたちが育てた野菜を使った「朝日村カレー」も登場します。地域の食材を活かしたこうした取り組みは、食育や地

産地消の推進にもつながっています。

この活動を支えているのは、多くの村民のみなさんのご協力と温かい気持ちです。現在も、食材の寄付やボランティアとしての参加を広く呼びかけています。

「また来たい」「次は自分も手伝いたい」

そんな声が自然と生まれる「カレー大作戦」。

朝日村らしい、やさしい地域づくりが、着実に進んでいます。

今回は2月28日(土)です。ご家族そろって参加してみたいかがでしょう。



カレー大作戦成功！

朝日村へ移住して

出身は山梨県、幼少期にドイツのハンブルクというデンマークの近くの寒い街で育ちました。その後帰国して山梨県で高校まで過ごし、大学から結婚までは京都府、高校の同級生である夫と結婚することになり松本市へ転入、そして朝日村に家を建てて現在へ至ります。

そんな様々な場所を移動してきた私ですが、今の朝日村での暮らしがとても気に入っています。夫は趣味のスノーボードとものづくりをできる環境を手に入れ「俺にとって朝日村は最高だ」と言っていました。3歳の息子は近所を友達と走り回って

遊び順調にわんぱく坊主に近づいています。私もおそろしくでロメインレタスや栗をもらったり、近所のお母さんたちと一緒に子育てをしている感覚があつたり、移住者ではありませんが孤独を感じたことはありません。

また、朝日村に住んで2年ですが、様々な気づきがありました。山梨のお隣なので似た方言や文化がありつつも甲州弁とは異なる印象の柔らかい話し方であること、ヨーロッパのような湿度の少ない爽やかな気候（京都の夏は湿気と暑さのダブルパンチでした）、村内を走る大型トラクターなどは今まで暮らした土地にはなかったもの

ばかりでとても新鮮です。村外の友人が遊びに来た際には「朝日村に入った途端道路がきれいになった！」と驚いていました。朝日村はどこか今まで暮らした場所と似た部分を感じることもあり、私にとっても初めての場所から安心できる場所になっていると感じます。これからも家族で楽しく穏やかに暮らしていけたらと思っています。

お台所
エッセイ

滝島 優菜

171



窓口情報

※了承を得て掲載しています。



おめでた

地区名	出生児	月日	父	母
中古見	上條ひまり	12・1	祐 弥	愛 実
新田下	金澤 寿依	11・12	拓 則	美絵子
原新田	赤尾 葉南	11・27	貢 佑	文 香

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
本 郷	上条のり子	96	神原 伸生
下 洗 馬	中村美代子	85	中村 哲治
下 洗 馬	丸山 昭子	96	丸山 礼子



みんなのアトリエ



朝日小学校2年1組

あおやぎ ゆい

青柳 佑依 さん

「星ときれいな花火」

花火や流れ星のところが工夫しました。



朝日小学校3年1組

まいはら こうせい

舞原 昂成 さん

「ことばから思いうかべて

～「のはらうた」より「ひかりのわ」～
クジラに重ねてぬった紫色のぬり方を工夫しました。

朝日小学校5年1組

わかばやし かな

若林 寛奈 さん

「夕日の野原」

きれいなグラデーションになるように、色を変えたり、うすくしたりしながら工夫しました。